

# 令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立弥生小学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

**自ら学び たくましく 心豊かな 弥生っ子の育成**

## 2 今年度の学校重点目標

- ・誰ひとり取り残すことのない学びを実践する学校
- ・教職員と児童の共通理解を図り、組織的・体系的な生徒指導の取り組みを推進する。
- ・学校いじめ対応チームを中心に教職員が一つになり、いじめを許さない いじめのない学校創りを推進する。
- ・小中一貫教育の推進を図り、義務教育9年間を見据えた児童の健全育成に心がける。

## 3 総合的な自己評価

本年度はこの三年間の内、最も教育相談の充実がみられた一年となった。専門的な助言をもと、個々の状況に応じた支援の充実を図ること、また個々を伸ばすための集団を高める支援によって、「誰ひとり取り残さない学びを実践する学校」への基礎固めの年となった。一方、あいさつ・言葉遣い等、基礎的な生活習慣の定着に課題も明確になってきており、令和8年度は課題に対する意識を高め、学校教育目標達成に向け努めていく。

## 4 総合的な学校関係者評価

子どもたちの学びに向かう態度は、引き続き高まりが見られる。生徒指導と特別支援教育が一体化し指導を行ったことが要因に挙げられる。現在の職員体制を維持し、指導にあたっていただきたい。また、職員がゆとりを持って、子どもたちに向き合えるよう努めてほしい。

## 5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
組織運営 情報提供	学校教育目標、学年目標の実現をめざして、適切に教育活動に取り組んでいる。	『人の話をよく聞き、自分の伝えたいことを伝えていきますか』児童78%、保護者82%、『学校は、子どもたちの健やかな成長のために地域や保護者との連携を大切にして教育を進めようとしていますか』保護者100% ○数値は昨年度とほぼ変化がないが、外部講師からは話の聴き方よくなっていると評価を受けている。 ○個々の状況に応じた支援が充実してきていると外部専門家の意見をいただいている。	○4月の生活指導に係る全校集会をはじめ、全校生徒が集う場で話の聴き方の指導が効果的であったので継続していく。 ○教職員の発する言葉について研修を行い、明確に説明できる力を高めるとともに、児童の行為についての確に評価できる言葉を習得し、教職員のさらなる授業力・指導力を向上させる。 ○引き続き、専門性の高い講師を招聘し、集団と個々の支援の充実を努めていく。	○生活指導に係る全校集会は、児童と教職員が学校生活のルールを共通理解するためには効果的であり、継続してほしい。またその集会を来年度は学校運営協議会委員に公開するなど、多くの方に知らせてほしい。 ○自分の考えを伝えるためにも、あいさつに係る数値が高くなるように努めていただきたい。 ○机の横に荷物をかけないなど、児童が学習に集中できるような環境整備も引き続き続けていただきたい。
	開かれた学校づくりを推進するために、学校の情報を積極的に保護者や地域に発信し、信頼関係の構築に取り組んでいる。	『お子さんの様子がよく分かりますか』保護者 95% ○数値は昨年度とほとんど変化なし。 ○総合的な学習の成果で「やよいふるさとまつり」をテーマとした学習を行った。それにより、夏祭りに積極的にかかわろうとする児童が増加した。また総合的な学習成果物を三田市有馬富士自然学習センターや地域の文化祭で展示した ○地域防災訓練や多文化共生に係る研修会を保護者や地域(弥生が丘自治会)と連携し、時期や内容を検討しながら推進することができた。	○個人情報の取り扱い、著作権の取り扱い等、情報発信について細心の注意をはらわなければならないっており、子どもの姿をネット等での発信は難しくなっている。そのためにも子どものキャリアパスポート、日々の学習成果を通して、子どもの成長を知っていただくよう、学校だより、学年だより、懇談会で周知を図っていく。 ○学級懇談会の充実を図り、保護者と学校の信頼関係構築に取り組む。 ○防災参観等、地域行事と連携できるものを継続して実施していく。	○学校だより等は、自治会掲示板に月初めに掲示できるよう可能な限り、月末の弥生が丘運営理事会で各丁目配布できるように努めていただきたい。 ○学級担任の経験年数などをふまえ、学校全体で学級を支える支援を継続していただきたい。 ○引き続き、地域と連携した学校行事を設定し、郷土愛を育むよう努めていただきたい。
教育課程 学習指導	学習指導要領および年間指導計画をもとに、各教科・領域における時数の確保ができ、適切に学習活動を進めている。	3月末までの年間授業時数は、1年生850時間、2年生910時間、3年生980時間、4～6年生1015時間を確保できる予定 ○本校の特色である「総合的な学習」に係る研究を長らく進めていく中で、キャリア教育の充実が見られた。 ○各学期はじめとおわりに教育相談及び教職員の打合せ時間を確保することにより、児童のアセスメントに基づき、見通しを持った指導に繋げることができた。	○総合的な学習では、地域と連携した教育課程を編成するためにカリキュラムマネジメントについて研修を行う。また、総合的な学習を研究している先進校の視察研修を行う。 ○本年度4月当初に教育相談期間の設定を行うことで、正確なアセスメントに基づき、支援を行うことができた。来年度も月2回程度ケースカンファレンス等を実施していけるよう職員研修の時間を確保し、年間計画を立てていく。	○総合的な学習等において、郷土愛を育むカリキュラムについては、今後も継続してほしい。 ○教育相談の充実を図るための努力は引き続き行っていただきたい。1月末までに大小を含め、50 ケース以上の相談を行ってきたことは評価ができる。今後、保護者の様々な悩みや、支援が必要な児童のためにも、相談及びケースカンファレンスは必要度が高まると考える。そのためにも、相談等を行う時間確保は必要と考える。
	基礎・基本の定着をめざし、学びに向かう態度を育成するとともに、個に応じた指導の充実に取り組んでいる。	『進んで宿題や調べ学習をしている』児童76%、保護者65% ○保護者・児童とも昨年度より、5%程度の低下がみられる。宿題については、個々の状況によって、量や内容、場所ついて支援を行っている。今後も、学習習慣と児童の実態に応じた課題を出していけるよう努める。 ○生徒指導・特別支援教育と総合的な学習及び生活科を学校の研究の両輪としてとして進めた。そのことが話しを聴く態度等の高まりに繋がっている。 ○帯時間を授業に加えることにより、指導⇒評価の道筋が明確になった。	○帯時間の学習タイムの充実を図るとともに、授業時数の確保と質の充実を図る。 ○教育環境をハード・ソフト両面から整備することで、子どもの学びに向かう態度が向上していることをふまえ、来年度も生徒指導と特別支援教育をコラボレーションした研究を継続する。 ○各学年、学年末の漢字書き取りテストをデータ化し、帯時間の漢字の学習について経年変化をデータ化し、学力向上に努める。	○教育環境において、南館と特別教室と体育館がある棟に洋式トイレが全く足りていない。早急に和式トイレを洋式トイレ化する必要がある。合わせて、トイレのドア、タイルの破損が目立ってきている。早急にトイレの乾式化にも行っていただきたい。 ○基礎学力定着をさせていくためにも生徒指導の四つの柱「話を聴く」・「並ぶ・並べる」・「時間を守る」・「言葉遣い」の徹底に努めていただきたい。
課題教育 特別支援教育 人権教育	ユニバーサルデザインの学習環境を構築し、個の正確なアセスメントをふまえた支援の下、誰一人取り残さない学びを実践する。	外部相談員(三田市教育委員会指導主事、ひまわり特別支援学校自立支援部、阪神教育事務所学校サポートチーム、尼崎と川西のこども家庭センター、兵庫教育大学院、兵庫大学等の特別支	○相談しやすい環境をさらに図っていくために、学校だより等により、SC相談やSSWの面談について啓発を行っていく。 ○保護者に担任以外の教職員が相談	○外部機関との連携を引き続き行い、専門性の高い指導・助言を得られるよう努めてほしい。 ○外部機関と連携していることについて、保護者が理解をしていない方が

		<p>援教育の学識者)を繰り返し招聘し、昨年度に引き続き、学校の状態を評価していただき、指導助言をいただいた。昨年度より、配慮を要する児童への支援体制、ケースカンファレンスの内容等、大幅に改善されていると評価をいただいている。</p> <p>○繰り返しケースカンファレンスを行うことにより、教職員がケースカンファレンスを進めていく力がついてきている。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターと生徒指導担当の連携が充実している。</p> <p>○SC やSSW、市教委の外部専門相談、ひまわり特別支援学校の教育相談を活用し、中学校へのスムーズな引継ぎ充実が図れた。</p>	<p>窓口になることの理解を高めていく。</p> <p>○引き続き、保護者に外部相談の紹介を行う。</p> <p>○引き続き、関係機関との連携を継続していく。</p> <p>○引き続き、教職員が児童に発する言葉について、意識を高め、分かりやすき指示や評価に努める。</p> <p>○本年度は支援員の5日配置主幹マネジメント教員の配置となった。しかしながら教員の持ち時間数は週27時間と多い。来年度は、本年度の配置に加え、新たにサポートルーム対応の教員が必要である。</p> <p>○SC、SSW の相談件数が増加し、現在の配置日数では足りていない。現在より、多い配置日数が必要と考える。</p> <p>○月曜日には掃除時間を設定せず、放課後の支援時間や打合せ時間の確保を行う。</p>	<p>多いと感じる。今後、学校として、外部機関とつながり、運営をしていることを機会あるごとに理解を深めてほしい。</p> <p>○保護者の中には、相談してよかったとの声が上がっているとのこと。教育相談について、様々な種類があることも含め、保護者に広めてほしい。</p> <p>○教育相談件数が多くなると、教員が勤務時間内に、授業準備や事務処理ができなくなり、帰宅時刻が遅くなっている。一日の時程も工夫しながら、教育相談の充実と教員の勤務時間の短縮を工夫して図ってほしい。</p> <p>○教育相談やケースカンファレンスの時間を捻出するためには、職員体制の維持・充実が不可欠である。申出書の作成も含め、本年度同様の職員体制を構築できるよう、市教育委員会に伝えていただきたい。</p> <p>○学校再編の話を進める前に、在籍している児童の教育環境の充実を図ることが大切である。そのためにも、本年度同様の職員体制を構築できるよう、市教育委員会に伝えていただきたい。</p>
	<p>全ての教育活動で人権教育の実践を行い、互いの違いを認め合い仲間を大切に学習を継続している。</p>	<p>『友だちと仲良くしている』児童 98% 保護者 98%</p> <p>○肯定的な評価のわずかに上昇しているものも、SNS等の影響と思われる好ましくない言葉遣いがみられる。</p>	<p>○相手を慮る言葉遣いができることは人権教育の視点としても重要である。道徳教育・生徒指導を通して、指導強化を図っていく。</p>	<p>○言葉の指導は引き続き行っていただきたい。</p> <p>○SNS 等に関する情報リテラシーについての研修を神戸北部少年サポートセンターと連携して行っている。これについても引き続き行っていただきたい</p>
生徒指導	<p>「学校いじめ防止基本方針」に則り、問題行動の初期対応から組織的に取り組んでいる。</p>	<p>全国学力状況調査で、いじめを許さない肯定的評価が100%となった。</p> <p>○いじめ事案は、昨年度より、国の方針に基づきいじめの認定を行ってきた。そのことにより、認定件数が一昨年度より引き続き、増加している。ケースについては初動を的確に行えたケースが増え、重大事案に繋がるケースは出ていない。</p> <p>○昨年度までいじめ事案の要因にあった過去のいじめ事案が要因となったケースは、ほとんどなくなっている。</p>	<p>○いじめ案件が発生した場合「学校いじめ防止基本方針」に従い対応してきた。このことを継続するとともに、保護者に対して、いじめ対応チームがあることを年度当初に理解を図る。</p> <p>○生活指導では「話を聴く」「並ぶ・並べる」「時間を守る」「言葉遣い」の4本の柱年間通して指導を行ってきた。その成果は出てきている。引き続き、発達支持的生徒指導の充実を図り、未然防止を図る。</p>	<p>○いじめを減少させるためにも、未然防止として、言葉を大切にすることにしていきたい。</p> <p>○生活指導の「話を聴く」「並ぶ・並べる」「時間を守る」「言葉遣い」の4本の柱を引き続き指導していくことはいじめの未然防止につながると考える。</p> <p>○保護者に「学校いじめ防止基本方針」及び「いじめ対応チーム」があることについて理解が進んでいない。機会あるごとに理解を深めていく必要がある。</p>
	<p>全ての教職員が日常の教育活動において、子どもの成長・発達を支えるために、発達支持的生徒指導に取り組んでいる。</p>	<p>○生徒指導、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当、研究推進担当が、よりよい教育環境と授業改善に向け、共通理解して取り組み始め、発達支持的生徒指導の充実がみられる。一方、教育相談、ケースカンファレンス、授業準備の時間確保が難しくなっている。</p> <p>○本年度より、子どものサポーターが配置され、多様な児童に対応するためのサポートルームの充実を図れた。</p>	<p>○教育相談時間の確保のため、5時間目下校日の設定を行い、支援や相談の充実を図る。</p> <p>○引き続き、上記の関係機関との連携を密にしつつ、学校の状態について、正確なアセスメントに基づいた支援を図る。</p> <p>○発達支持的生徒指導の充実を図るためにも、教職員がゆとりを持って、児童に対峙できるよう、働き方改革を進めていく。</p>	<p>○教員が保護者や子どもの相談に乗っていかうとすれば、教員の心のゆとりが必要である。そのためにも働き方改革を進めていただきたい。</p> <p>○サポートルームの運営が教員の授業時数を多くしている。サポートルームは必要な空間である。そのためにも、サポートルームを支援する指導者または支援者が必要である。</p> <p>○教育相談時間の確保をしていくために、学校の時程等も見直していく必要がある。</p>

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
6 月	重点目標等についての説明、授業・学校行事等教育活動の参観及び施設・設備の観察
12月	学校評価アンケートの内容について、意見交換会
1・2月	保護者・児童・教職員アンケート実施
3月	保護者・児童・教職員アンケート分析結果を含めた学校評価について、意見交換会

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
6 月 5 日	第1回 委員委嘱 学校経営方針と活動について年間予定について
12 月 4 日	第2回 保護者・児童アンケートについて学校の状況について
3 月 5 日	第3回 保護者・児童アンケートについて今年度の反省と次年度の課題について 等
通年	学校・地域行事への参加及び啓発(学校だより等)

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
4月	学校だより ホームページ	今年度の学校教育目標や指導方針について	
3月臨時号	学校だより ホームページ	保護者、児童アンケート結果及び、学校関係者評価委員会の意見を学校の考え方と共に公表	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います